

2017年3月期 第1四半期 決算説明資料

2016年8月30日



ご説明内容

- 2017年3月期第1四半期決算概況
 - 今期の見通し【8月8日公表】
- 【参考】
- 1618中期経営計画

■ 2017年3月期第1四半期決算概況

■ 今期の見通し【8月8日公表】

【参考】

■ 1618中期経営計画

2017年3月期第1四半期決算のポイント

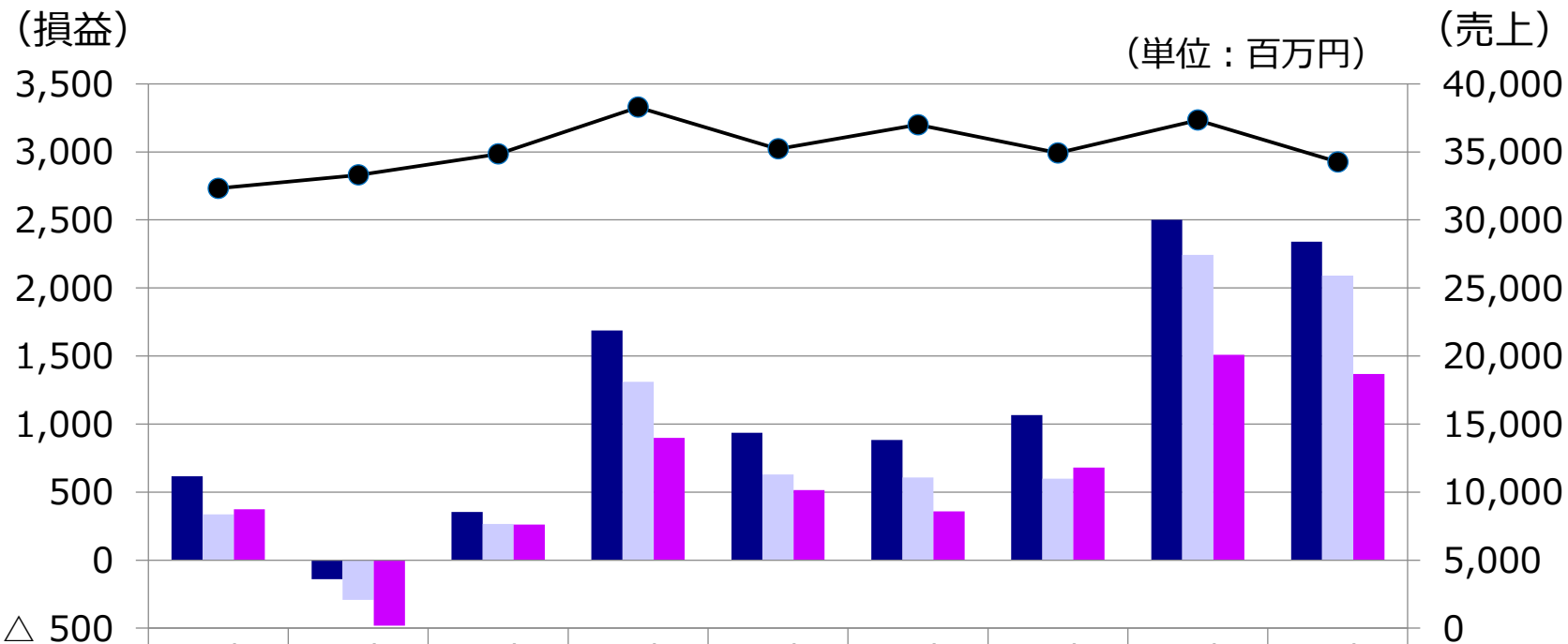
(単位：百万円)

	2016年3月期 第1四半期		2017年3月期 第1四半期		増減	
	金額	対売上高	金額	対売上高	金額	対売上高
売上高	35,217	100.0%	34,258	100.0%	△959	△2.7%
営業利益	936	2.7%	2,340	6.8%	1,404	150.1%
経常利益	629	1.8%	2,090	6.1%	1,461	232.0%
四半期純利益	514	1.5%	1,368	4.0%	854	165.9%
EPS	19.93		52.94		33.01	

《全体感》

- 円高基調の為替影響や地金市況下落の影響で受注量は増加するも売上は減少。
- 中国では小型車減税の効果もあり受注量増加
- 北米の生産性改善が進み大きく収益貢献
⇒営業利益23億（前年比150.1%増）

連結決算概要（四半期推移）



	15/3 1Q	15/3 2Q	15/3 3Q	15/3 4Q	16/3 1Q	16/3 2Q	16/3 3Q	16/3 4Q	17/3 1Q
△ 500									
■ 営業損益	617	(139)	355	1,688	936	883	1,066	2,500	2,340
■ 経常損益	336	(291)	266	1,311	629	607	599	2,242	2,090
■ 当期純損益	374	(481)	262	899	514	358	680	1,510	1,368
● 売上高	32,312	33,294	34,842	38,279	35,217	36,989	34,913	37,332	34,258

ダイカスト事業

(単位：百万円)

		2016年3月期 第1四半期		2017年3月期 第1四半期		増減	
日本	売上高	15,196	100.0%	14,835	100.0%	△361	△2.4%
	セグメント 損益	595	3.9%	725	4.9%	130	21.9%
北米	売上高	12,010	100.0%	11,035	100.0%	△975	△8.1%
	セグメント 損益	344	2.9%	1,029	9.3%	685	199.2%
アジア	売上高	6,233	100.0%	6,432	100.0%	199	3.2%
	セグメント 損益	△132	△2.1%	382	5.9%	514	—

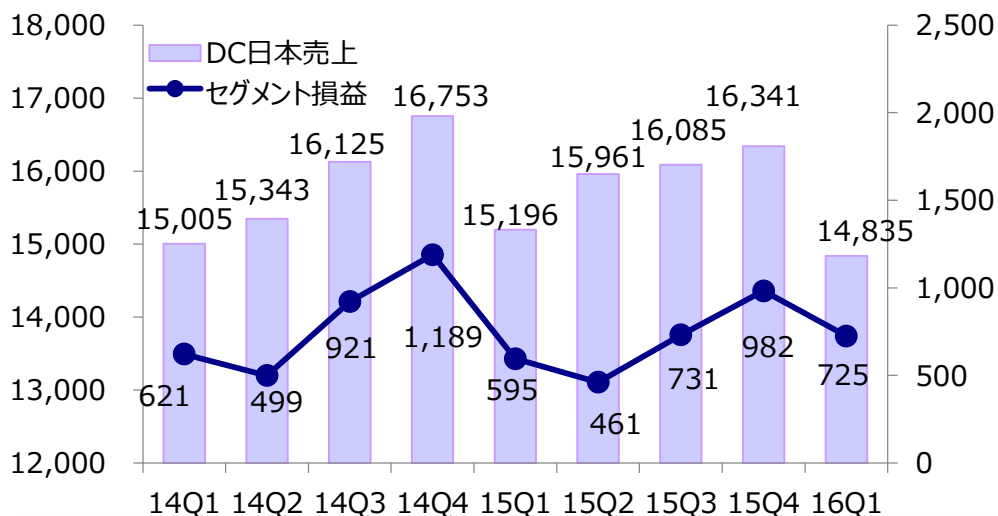
✓ ダイカストセグメントの海外売上比率

2016/3期1Q : 54.6% ⇒ 2016/3期 ⇒ 53.6% ⇒ 2017/3期1Q ⇒ 54.1%

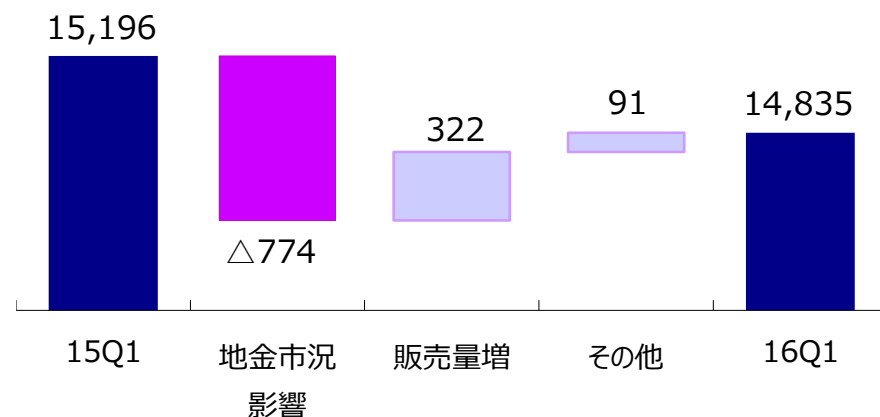
※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明

ダイカスト日本

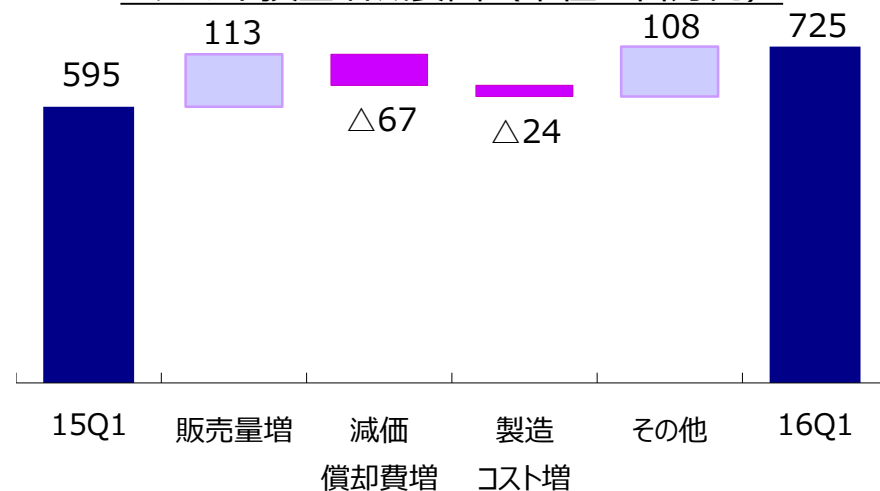
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (単位：百万円)



売上高増減要因 (単位：百万円)



セグメント損益増減要因 (単位：百万円)



売上：3.6億円減（前年比2.4%減）

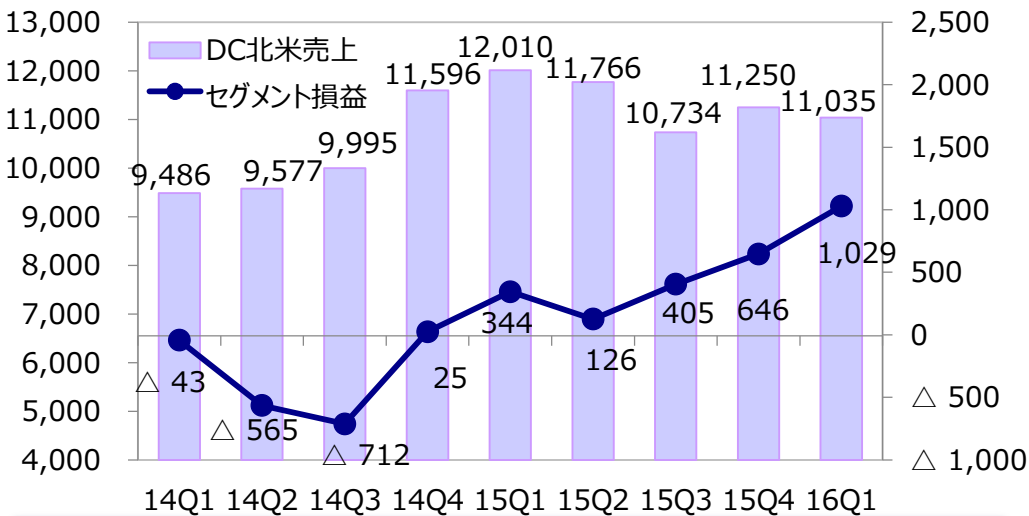
- 北米向け輸出は好調。受注量は増加（2.1%増）
- アルミ地金市況下落の影響

セグメント損益：1.3億円増（前年比21.9%増）

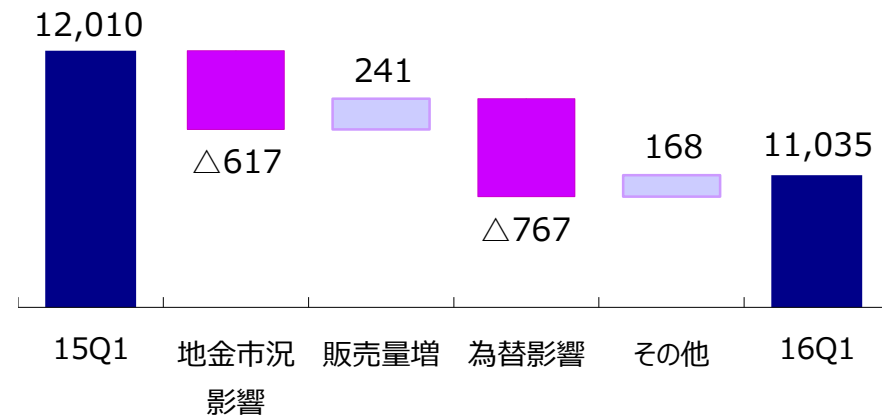
- 販売量増による増益効果

ダイカスト北米

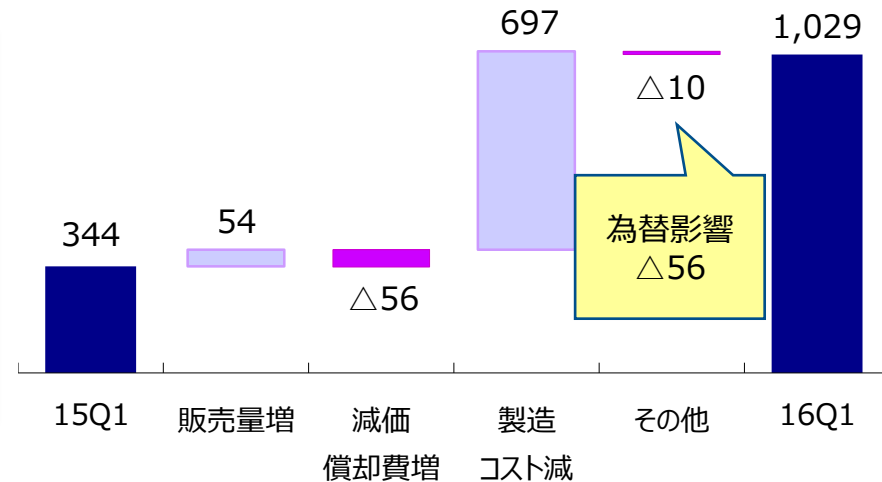
ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (単位：百万円)



売上高増減要因 (単位：百万円)



セグメント損益増減要因 (単位：百万円)



売上：9.8億円減（前年比8.1%減）

- ライトトラック系部品の受注増加
- 地金市況下落及び為替の影響

セグメント損益：6.9億円増（前年比199.2%増）

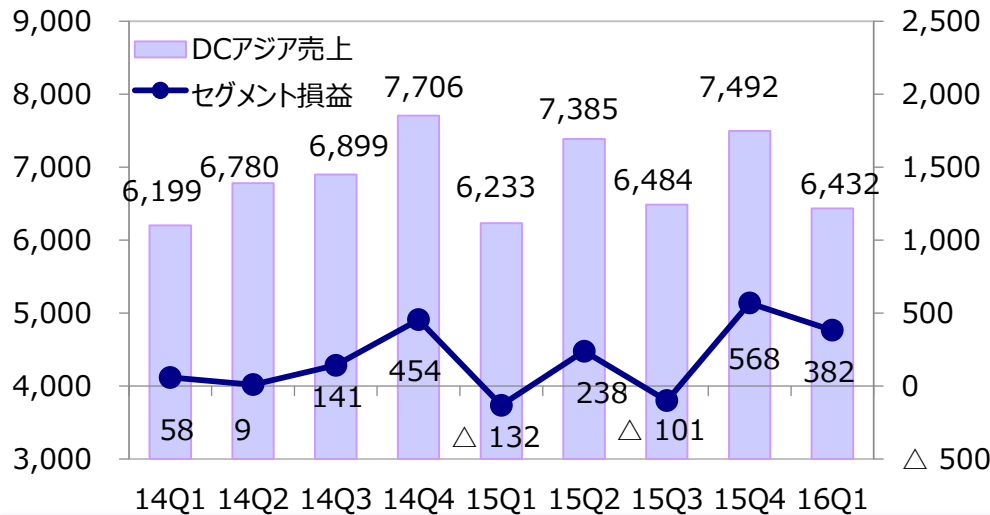
- 生産性改善の影響の効果

決算期：アメリカ3月期、メキシコ12月期

レート（15Q1⇒16Q1）アメリカ 121.37⇒109.58 メキシコ 119.58⇒116.44

ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



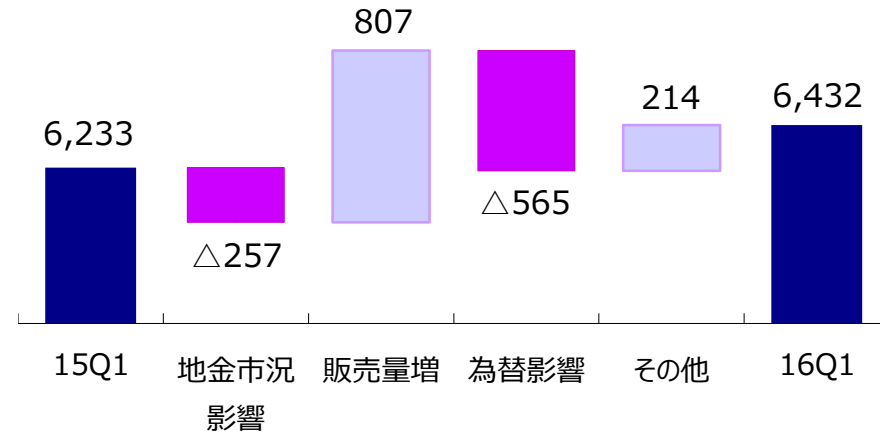
売上：2.0億円増（前年比3.2%増）

- 地金市況下落及び為替の影響
- 中国：小型車向け新規部品立上げにより受注増加
- インド：ディーゼル車離れによる販売量減少の影響

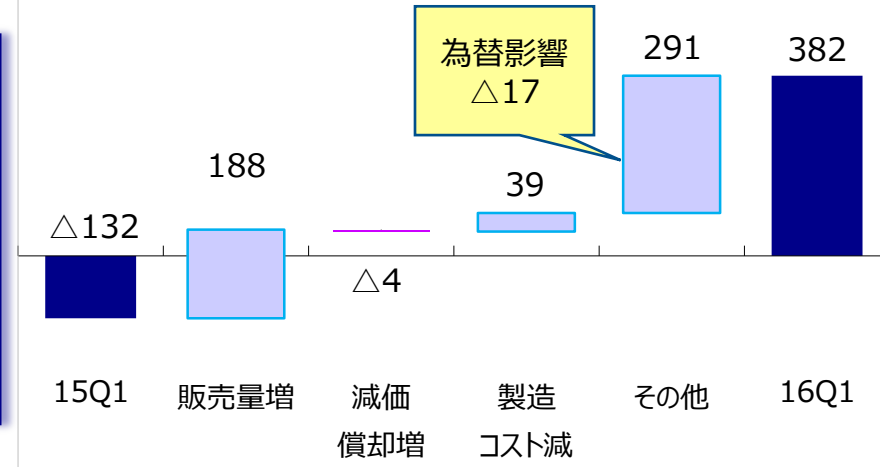
セグメント損益：5.1億円増（前年度は△1.3億円）

- 中国における増収効果

売上高増減要因（単位：百万円）



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



決算期：中国12月期、インド3月期
 レート（15Q1⇒16Q1） 人民元 19.16⇒17.77 インドルピー 1.92⇒1.64

アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2016年3月期 第1四半期		2017年3月期 第1四半期		増減	
アルミニウム 事業	売上高	1,272	100%	1,123	100%	△149	△11.7%
	セグメント損益	74	5.8%	90	8.0%	16	21.0%
完成品 事業	売上高	503	100%	831	100%	328	65.0%
	セグメント損益	33	6.6%	59	7.1%	26	77.5%

アルミニウム事業

- 売上：アルミ市況変動により販売価格が下落（前期比149百万円減 11.7%減）
- セグメント損益：原材料価格の下落と原価低減活動効果（前期比16百万円増 21.0%増）

完成品事業

- 売上：半導体関連企業のクリーンルーム物件やコンピュータールーム向け物件の受注増加（前期比328百万円増 65.0%増）
- セグメント損益：増収効果等（前期比26百万円増 77.5%）

貸借対照表

為替影響で△57億。総資産34億圧縮（為替影響除く）
 売上債権、有形固定資産圧縮により借入金削減。

（単位：百万円）

	2016年3月末	2016年6月末	増減
流動資産	44,181	41,435	△2,746
現金預金	4,505	5,228	723
売上債権	26,076	23,280	△2,796
棚卸資産	10,356	9,964	△392
固定資産	97,512	91,102	△6,410
有形固定資産	85,806	80,635	△5,171
資産合計	141,694	132,538	△9,156
負債合計	80,233	73,539	△6,694
仕入債務	18,118	16,844	△1,274
長短借入金	42,448	37,295	△5,153
純資産合計	61,460	58,998	△2,462
自己資本比率	43.3%	44.4%	1.1%

キャッシュ・フロー

税金等調整前利益の増加と運転資本の圧縮により営業CF増加
 長短借入金の返済が進む（前年比44億円）

（単位：百万円）

	2015年度1Q	2016年度1Q	増減
営業CF	5,406	7,893	2,487
税金等調整前利益	641	2,075	1,434
減価償却費	3,709	3,470	△239
運転資本増減	744	1,381	637
その他	312	967	655
投資CF	△4,346	△3,361	985
有形・無形固定資産の取得	△4,392	△3,278	1,114
その他	46	△83	△129
財務CF	847	△3,552	△4,399
短期借入金の増減	△191	△1,910	△1,719
長期借入金の増減	1,238	△1,378	△2,616
その他	△200	△264	△64

- 2017年3月期第1四半期決算概況
 - 今期の見通し【8月8日公表】
- 【参考】
- 1618中期経営計画

2016年度業績予想

(単位：百万円)

	2015年度		2016年度 期初計画(5/9)		2016年度 修正計画(8/8)		対期初計画増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	144,451	100%	136,000	100%	134,400	100%	△1,600	△1.2%
営業利益	5,385	3.7%	5,500	4.0%	6,000	4.5%	500	9.1%
経常利益	4,077	2.8%	4,700	3.5%	5,200	3.9%	500	10.6%
当期純利益	3,062	2.1%	3,100	2.3%	3,750	2.8%	650	21.0%
EPS	118.50		119.94		145.09		—	

売上高

- ダイカスト日本、米国、中国の受注は期初計画通りの水準又は増加を見込む。
- メキシコで生産終了による受注減、インドでディーゼル車の販売量減少による受注減を予想。
- 地金市況下落の影響、想定為替レートの変更による影響により連結売上高は当初計画を下回る。

営業利益

- 原価低減効果、販売増による効果により増益

期初計画の前提レート (5/9) : USD 110円 人民元 17.0円 ルピー 1.7円

修正計画の前提レート (8/8) : USD 105円 人民元 16.0円 ルピー 1.6円 (7月以降)

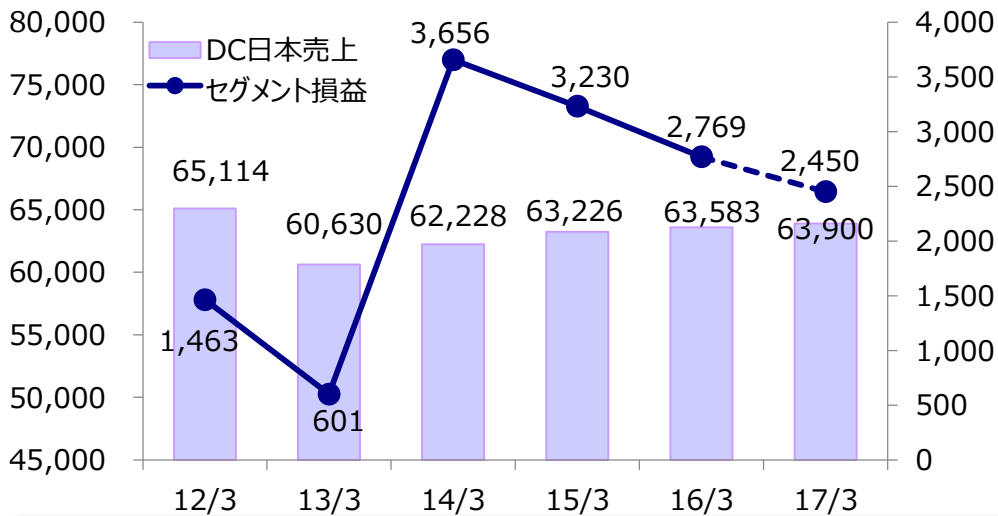
2016年度業績予測

(単位：百万円)

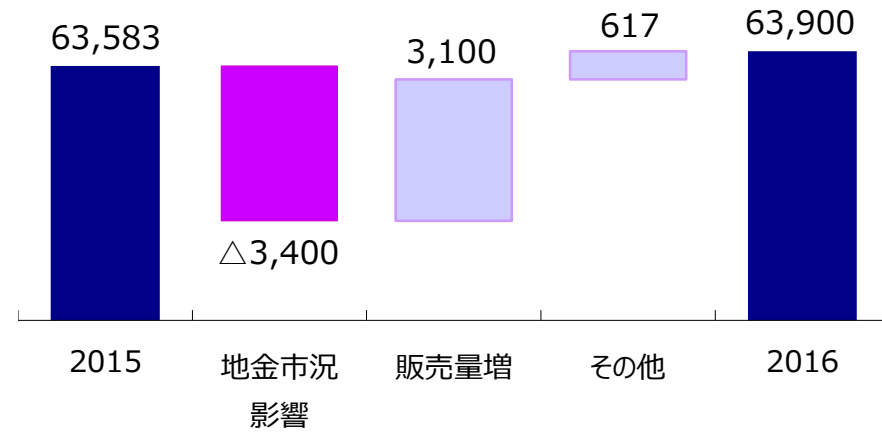
	2015年度 実績	2016年度 期初計画	2016年度 8/8修正計画	対期初計画 増減	対期初計画 増減率
売上高	144,451	136,000	134,400	△1,600	△1.2%
ダイカスト日本	63,583	63,900	63,900	－	－
ダイカスト北米	45,760	39,400	38,600	△800	△2.0%
ダイカストアジア	27,594	26,200	25,400	△800	△3.1%
アルミニウム	4,921	4,300	4,300	－	－
完成品	2,590	2,200	2,200	－	－
営業利益	5,385	5,500	6,000	500	9.1%
ダイカスト日本	2,769	2,300	2,450	150	6.5%
ダイカスト北米	1,521	2,200	2,250	50	2.3%
ダイカストアジア	573	700	1,000	300	42.9%
アルミニウム	338	200	200	－	－
完成品	212	100	100	－	－
消去または全社	△30	－	－	－	－
経常利益	4,077	4,700	5,200	500	10.6%
当期純利益	3,062	3,100	3,750	650	21.0%

ダイカスト日本

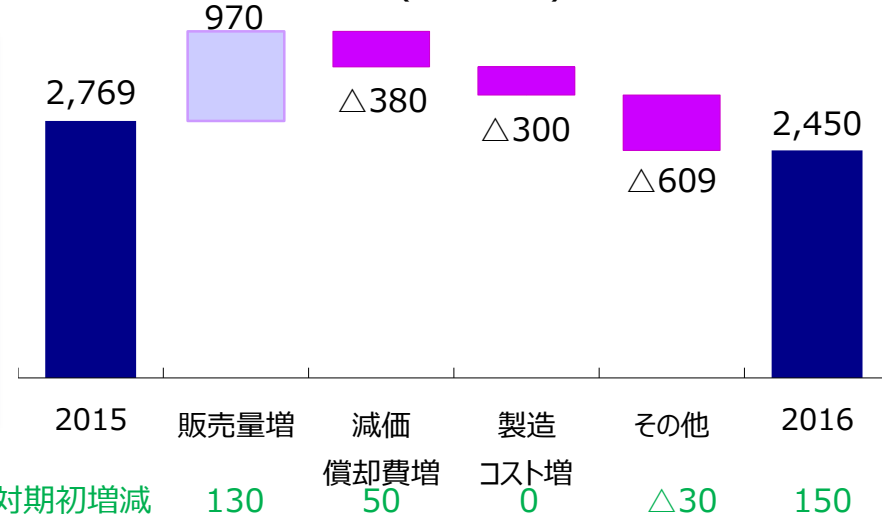
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (単位：百万円)



対期初増減 $\Delta 1,090$ 400 690 0
売上高増減予測(8/8修正) (単位：百万円)



セグメント損益増減予測(8/8修正) (単位：百万円)



売上：639億円

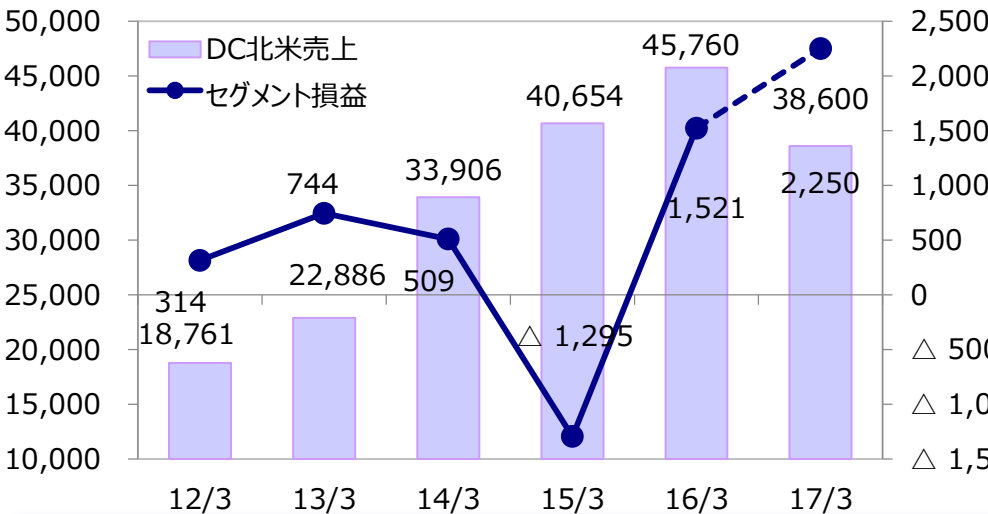
- 販売量は期初計画を上回る水準
- 地金市況は期初計画よりも下落する予測

セグメント損益：24.5億円 (対期初計画6.5%増)

- 販売量の増加効果により期初予測を上回る予測

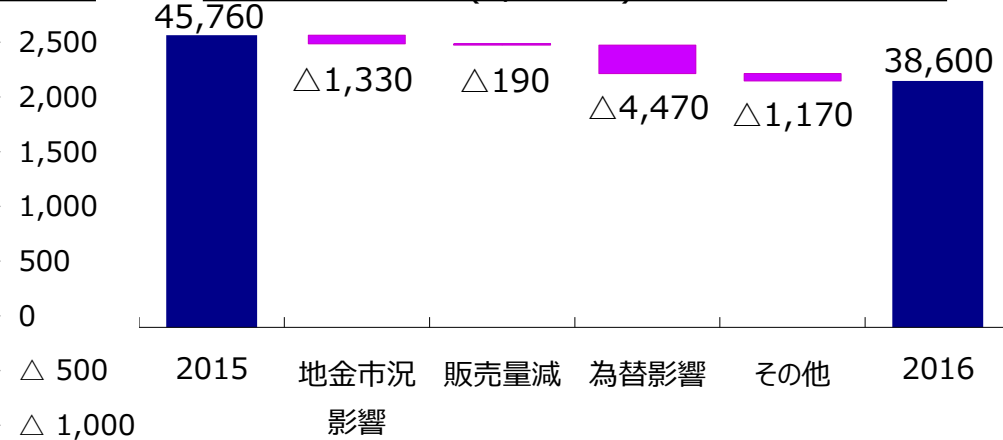
ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (単位：百万円)

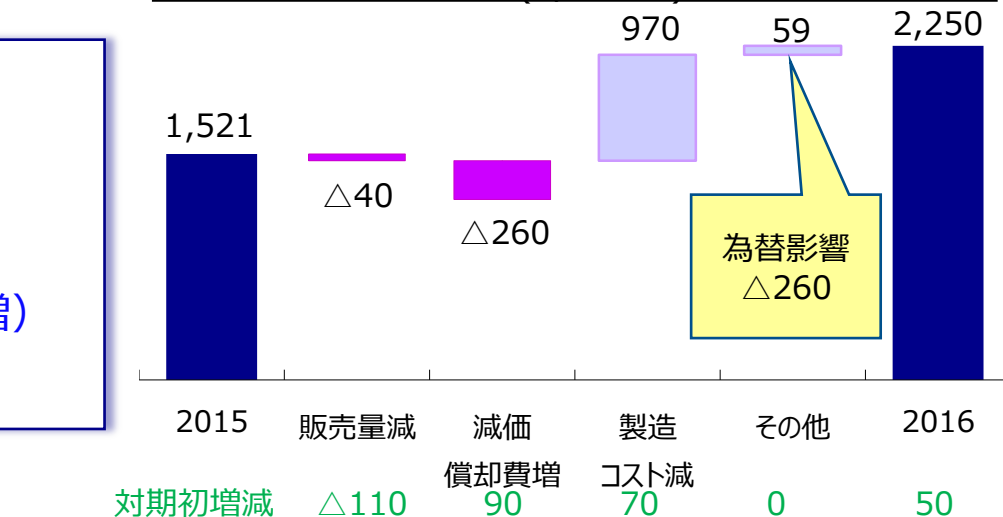


対期初増減 190 △500 △710 220 △800

売上高増減予測(8/8修正) (単位：百万円)



セグメント損益増減予測(8/8修正) (単位：百万円)



対期初増減 △110 償却費増 90 コスト減 70 0 50

売上：386億円 (対期初計画 2%減)

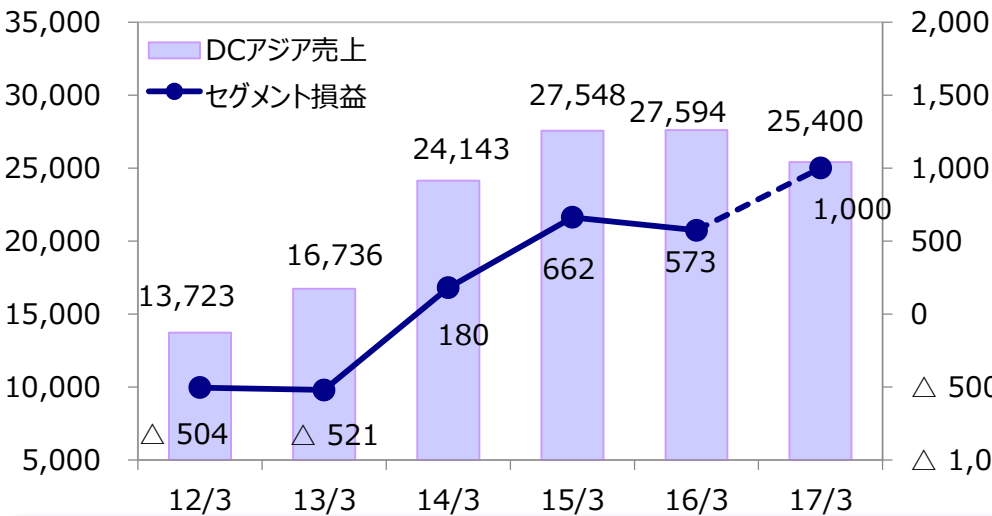
- アメリカの販売量は期初計画を上回る水準
- メキシコでの販売量減少
- 円高進行による為替影響

セグメント損益：22.5億円 (対期初計画2.3%増)

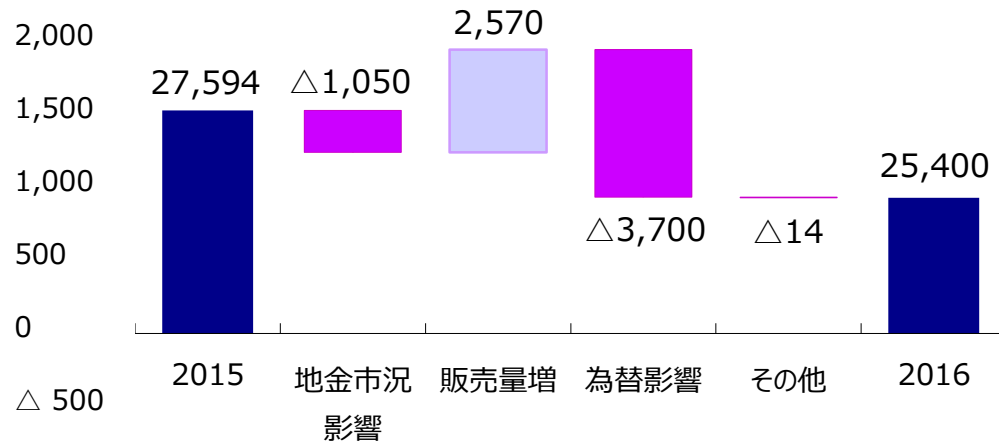
- アメリカ・メキシコの原価低減効果

ダイカストアジア

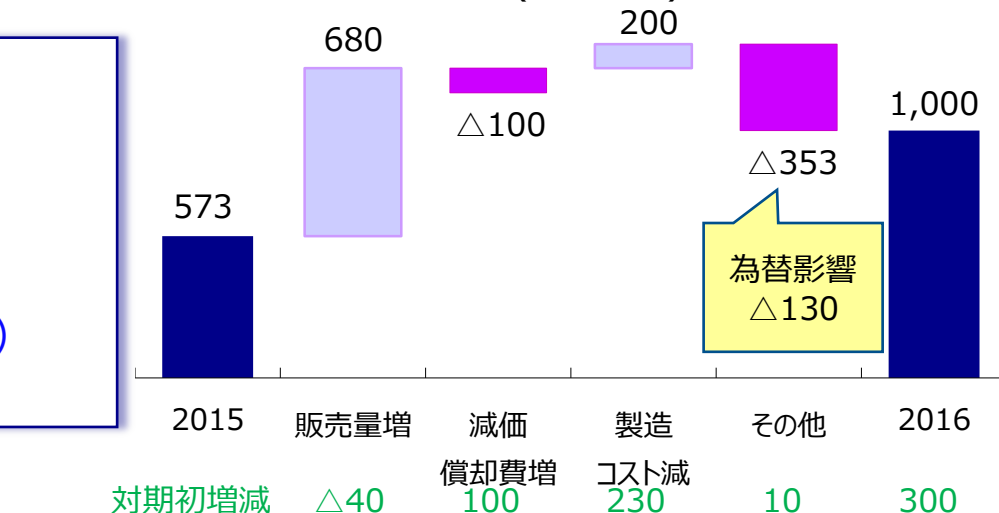
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



対期初増減 0 △160 △580 △60 △800
売上高増減予測(8/8修正)（単位：百万円）



△ 500 △ 1,000
セグメント損益増減予測(8/8修正)（単位：百万円）



対期初増減 △40 償却費増 100 コスト減 230 10 300

売上：254億円（対期初計画 3%減）

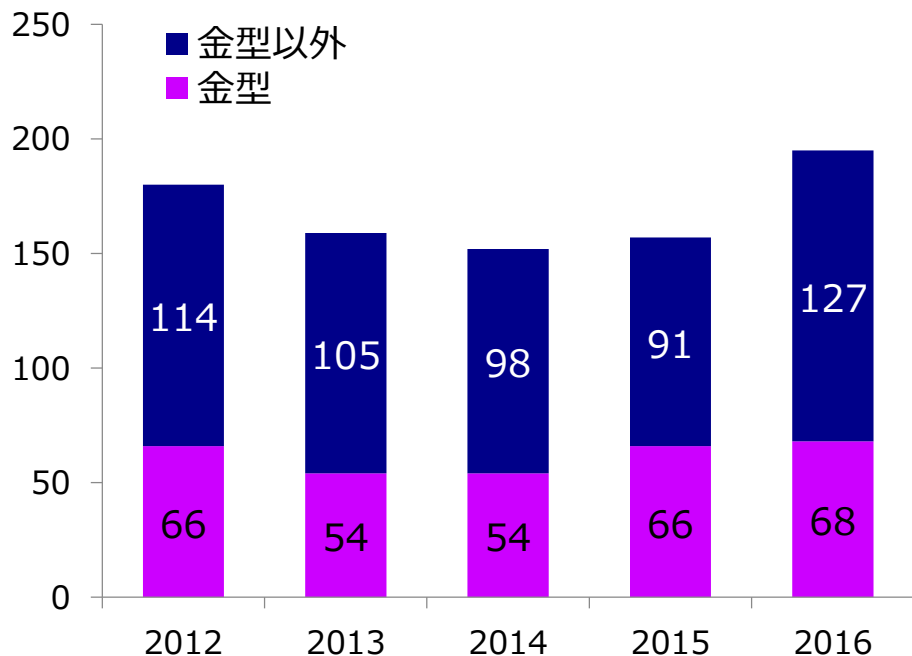
- 中国：販売量は期初計画通りの水準
- インド：販売量は期初計画より減少
- 円高進行による為替影響

セグメント損益：10億円（対期初計画42.9%増）

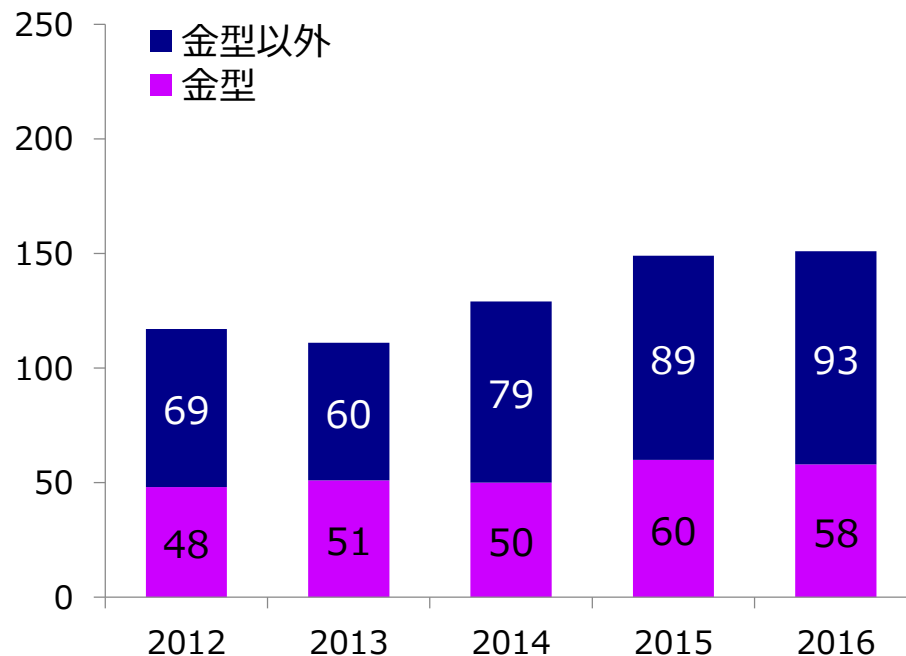
- 中国での販売量増加及び原価低減効果

設備投資・減価償却の動向

設備投資額の推移（単位：億円）



減価償却費の推移（単位：億円）



2016年度

- 投資内容 ダイカスト：能力維持、合理化投資を中心 加工：海外拠点の能力拡充投資を中心
- 設備投資金額：合計195億円（一般設備投資 127億円、金型投資 68億円）

配当

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度 予想
1株当たり配当金					
(年間)	3	14	12	14	16
中間配当	3	8	6	6	8
期末配当	—	6	6	8	8
1株当たり純損益(連結)	△7.76	287.10	40.85	118.50	145.09
配当性向(連結)	—	4.9%	29.4%	11.8%	11.0%

- 2015年度は、期初計画の業績を達成できたため、期末配当を2円増配し年間14円の配当を実施
- 2016年度は、年間16円の配当を予想
- 中長期的な企業成長に必要な経営基盤や配当性向等を勘案し適正な利益還元を推進

- 2017年3月期第1四半期決算概況
- 今期の見通し【8月8日公表】

【参考】

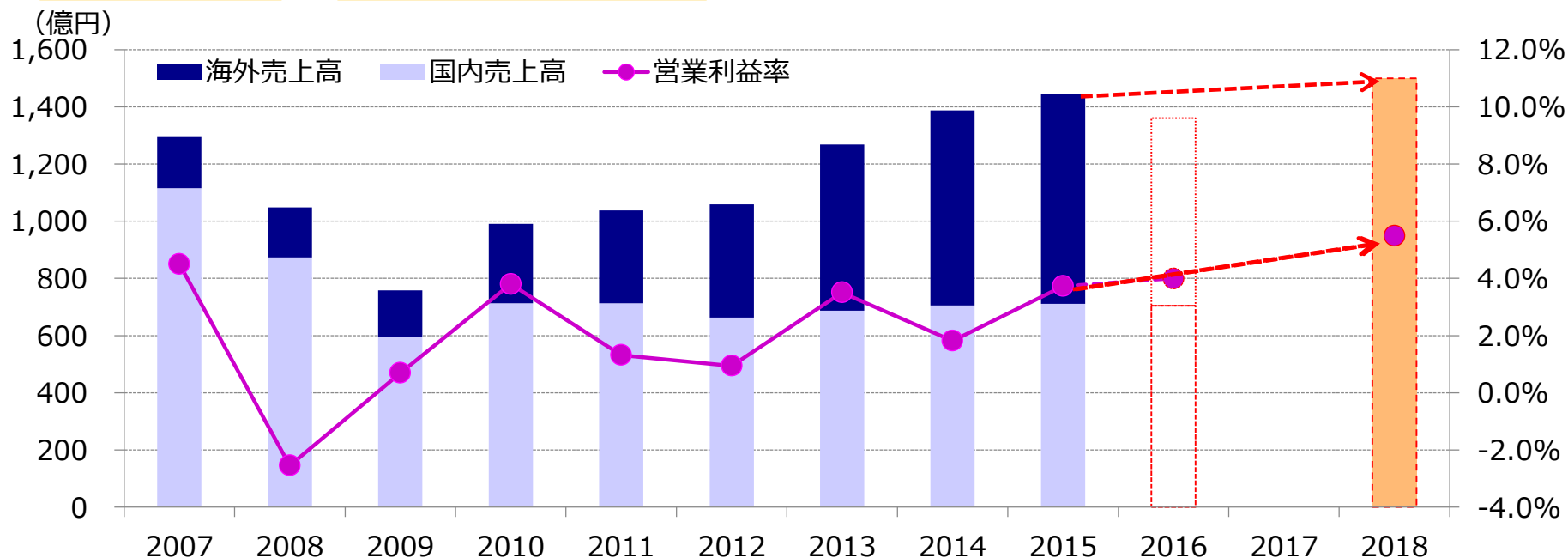
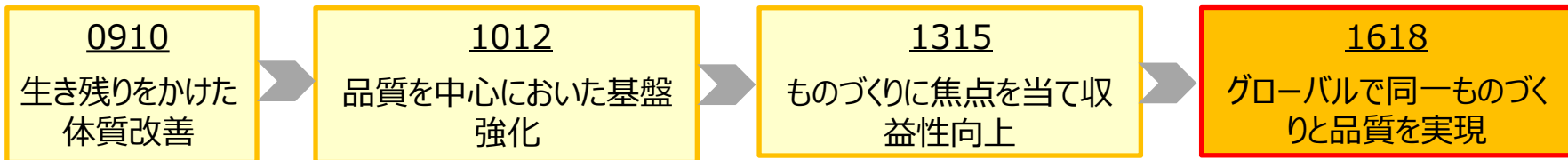
- 1618中期経営計画

10年ビジョンと中期経営計画の推移

「すべてのステークホルダーから信頼されるグローバルトップ企業」をめざす。

ものづくりを究め、ものづくりを進化させる

信頼を究めよう 2025



1618中計では1315中計を更にグローバルで展開し「ものづくり」「ひとづくり」「収益力強化」を図る

1618中期経営計画の基本方針

アーレスティ10年ビジョン

信頼を究めよう 2025

ありたい
姿

- お客様からの信頼No1
- グローバルで車の軽量化に役立つ
- 売上高2000億+α

1618中期経営計画

大型高難易度製品の
顧客評価No1実現

ものづくりを究める

生きいきと活動する
会社を築く

収益力を高める

リスク管理を徹底する

取り巻く事業環境

- ・新興国を中心とした自動車需要の増加
- ・先進国の需要回復
- ・軽量化によるアルミダイカスト採用増加
- ・少子高齢化に伴う国内における自動車販売減少

大型高難易度製品の顧客評価No1実現

大型で要求品質の高い部品のQCDを向上させることで顧客評価No.1を目指す

合肥アーレスティ

アーレスティウイلمントン

アーレスティインドア

広州アーレスティ

アーレスティメヒカーナ

(事業背景)

- ◆ 新興国を中心とした世界自動車生産台数の増加
- ◆ DC部品の外注化の流れ
- ◆ 燃費規制による軽量化ニーズの拡大

(当社の強み)

- ◆ 技術力、グローバル生産拠点展開
- ◆ DCの設計から生産までの総合的な技術開発力
- ◆ 一気通貫生産体制

(1618中期経営計画)

- 大型高難易度製品の営業活動をグローバルで推進。
- 既存の日系メーカーのみならず、欧米系新規顧客に対しても積極的に営業活動を展開
- 投資効率、生産効率の優れたグローバルラインを構築し全拠点に水平展開する。全世界でお客様に貢献する。

ものづくりを究める



グローバルレベルでの業務改革・標準化

事業（製品、サービス）あるいは機能（Q、C、Dなど）の目的・目標に対し、付加価値を高めていくプロセスと体制をグローバルで同一の水準で構築する

グローバル基準でものづくりプロセスを確立

製造条件の分析結果に基づく継続的な生産性改善活動と改善結果の他拠点展開でグローバルでしゅみを統一

信頼を究める品質保証の確立

各部門、各製造工程で高い品質が保証されるしゅみを築く。常にレベルアップを目指す改善活動を継続的に実施

技術のロードマップの実現

技術ロードマップに基づく技術的な課題の解決と他製品や他生産拠点へ水平展開の実施

徹底した製造原価低減活動

更なる生産性向上や効率化・合理化による製造原単位の低減等により、製造原価の低減を実現

生きいきと活動する会社を築く

RST Wayを実践できる企業風土づくり

RSTWay

「誠実」「率先」「スピード」「成長」「挑戦」

RSTWayを実践できる、風通しの良い企業風土を築く

- ✓ 社員のモチベーション向上
- ✓ 社員間の良好な関係構築
- ✓ スピーディかつ正確な情報伝達

コミュニケーションスタイルの確立

表彰・報酬制度、人事評価制度、女性活躍促進
社内広報、マネジメントレベルアップ研修等の刷新

ものづくりを究める人材育成

RSTプロダクションWay

教育体系を整備運用して人材育成を強化
(グローバルRST学園の充実)

- ✓ ものづくりを究めるために必要な教育カリキュラムを作成
- ✓ 国内・海外で同レベルの教育が行える環境整備

社員のモチベーション向上

社員の知識、技能のレベルアップ
アーレスティブロダクションウェイの浸透

収益力を高める

1618中期経営計画 経営目標値

売上高
1,500億円

売上高営業利益率
5.5%

総資産当期純利益率(ROA)
3.0%

自己資本当期純利益率(ROE)
7.0%

中長期的な事業発展・企業成長のための財務体質と経営基盤の強化

適正な利益還元

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MPO_IR@ahresty.com

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。